

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	北海道
再委託先	浦河町

## 1 事業推進の体制

実践中心校	浦河町立荻伏小学校
協力校	浦河町内小中学校
関係機関	浦河学校給食センター

## 2 具体的な取組等について

テーマ1	望ましい食習慣を身に付け、朝食摂取率の向上を図る方策
評価指標	児童生徒・保護者に対する朝食に関するアンケート調査、給食残量調査。
効果	朝食に関する授業や教材の配布等により、児童の朝食への関心を高め、朝食の大切さに気付かせることができた。また、食育講演会の開催や町広報誌への掲載などを行ったことにより、保護者や地域住民の朝食の大切さへの関心を高めることができた。

### (取組状況)

#### (1) 教育課程と食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の見直し、作成

##### ア 先進地視察（7月28日～30日）

北海道教育大学附属釧路小学校の公開研究会に参加し、参考となる資料や実践事例を持ち帰ることができた。

##### イ 食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の見直し、作成（6月）

児童生徒の発達の段階に応じた指導を行うことができるよう、食に関する指導の全体計画及び年間指導計画を見直し、作成した。

#### (2) 教科等における食に関する指導の充実（9月）

食生活学習教材を活用し、実践中心校第5学年の児童を対象に「元気な毎日と食べ物」をテーマとした朝食に関する指導をTTで行った。栄養教諭が栄養価に関する専門的な説明を行ったことにより、児童の食に対する興味・関心を高め、朝食の重要性を理解させることができた。



【食に関する指導の様子】

#### (3) 家庭、PTAと連携した取組

##### ア 「朝ご飯を食べようカレンダー」の配布

食に関する指導の事前学習及び児童の朝食摂取状況把握のため、「朝ご飯を食べようカレンダー」で夏季休業中に朝食の内容を記録し、その状況を振り返らせた。今回は実践中心校第5学年の児童を対象として取組を進めたが、今後は町内の全児童生徒に配布し、積極的に活用するなどして、町内全体の朝食の摂取率向上を図る必要がある。

朝ご飯を食べようカレンダー					名前	
～☆夏休みの目標☆～					18日	27日
28日	29日	30日	31日	8月1日	2日	3日
4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日

☆朝ご飯を食べた日、食べ物のイラストに色を塗りましょう。  
 ☆朝ご飯の食べた内容で当てはまる所の□にチェックをつけましょう。  
 ☆最終に自分の食べた朝飯を振り返って感想を下の枠に書きましょう。

【朝ご飯を食べようカレンダー】

イ 町広報誌を活用した朝食メニューの実践（9月、1月）

町民から「簡単朝食レシピ」を公募し、その中から厳選したレシピを町広報誌やホームページに掲載して、町民に普及啓発を行った。町広報誌の配布先は町内全戸及び関係各所とし、6,100部発行した。今後も町の広報誌への掲載を継続し、家庭に働きかける必要がある。

ウ 親子料理教室（11月）

児童が収穫したお米を使用し、親子料理教室を行った。メニューは朝食としても活用できるものとした。

当日調理したメニューのレシピや朝食の役割について記載したリーフレットを参加者に配布した。

自分たちで米を栽培したことにより、米一粒一粒まで大切に作る児童の姿が見られるなど、食の大切さへの意識が高まった。

○ 参加者：実践中心校第5学年児童とその保護者（33名）

○ 献立：カレーライス、枝豆サラダ、ヨーグルト和え



【親子料理教室の様子】

エ 食育講演会の開催（1月）

○ 場所：浦河町総合文化会館

○ 演題：「スポーツ栄養～朝食の大切さ～」

○ 講師：北海道日本ハムファイターズ  
管理栄養士 柄澤 紀 氏  
北海道日本ハムファイターズ  
ベースボールアカデミー講師  
牧谷宇佐美 氏



【食育講演会の様子】

○ 講演内容：柄澤氏は、プロ野球選手の食生活を例に挙げ、食事と運動の関わりや朝食の役割、望ましい食事内容について説明した。牧谷氏は、自身の現役時代の食事内容と選手としてケガのない丈夫な体づくりについて説明した。

講演には、親子やスポーツ少年団のチーム全員など、約120名の町民が参加した。参加者からは「朝食の大切さがわかった」「朝食の具体的な量がわかったので、明日から見直したい」などの声があがった。



【北海道日本ハムファイターズの管理栄養士がプロ野球選手に配布している朝食レシピ】

#### (4) 調査

##### ア 児童生徒・保護者に対するアンケート調査の実施

小学校第5学年の児童を対象に、「朝食に関するアンケート」を10月と1月に実施した。

＜朝食の摂取頻度＞

「毎日」 89%→91%

「週6～5回」 8%→6%

「朝食に関するアンケート」から「朝食の摂取頻度」については、週6～5回が2ポイント減少し、毎日食べているが2ポイント増加しており、朝食に対する意識の向上がみられた。

より児童の意識を高めることができるよう、今後も指導を継続する必要がある。

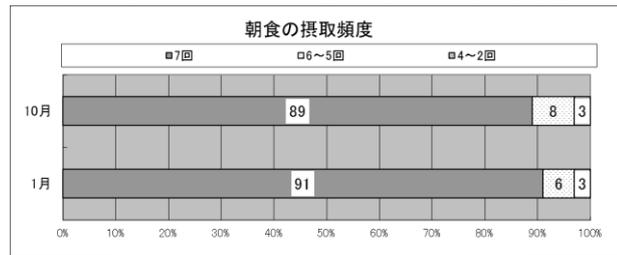
##### イ 給食残量調査

11月と2月に実践中心校と協力校で1週間調査を行った。

＜残食率＞

実践中心校 22.8%→21.6%

協力校 30.1%→25.5%



【朝食摂取頻度調査結果】

	11月	2月	変容
実践中心校	22.8%	21.6%	-1.2
協力校	30.1%	25.5%	-4.6

【給食残量調査結果】

給食残量調査では、全体的に改善が見られたが、残食率が20%以上と高い値であり、今後は児童生徒にとって魅力ある給食となるよう、献立内容を検討する必要がある。

協力校では栄養教諭が授業で食に関する指導を行ったり、給食の時間に食の大切さについて指導したりする場面が少なかったことから、残食率が高くなった。

したがって、児童が給食の大切さや感謝の気持ちをはぐくむことができるよう、実践中心校はもとより、協力校での食に関する指導の充実を図る必要がある。

### 3 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 朝食に関する授業や教材等を配布したことにより、朝食を毎日食べている児童が増え、朝食に対する関心を高めるとともに、朝食の大切さに気付かせることができた。
- 食育講演会の開催や「簡単朝食レシピ」の町広報誌への掲載などを行ったことにより、保護者や地域住民に朝食の大切さへの関心を高めることができた。
- 「簡単朝食レシピ」の配布や「食育だより」の発行など、家庭に向けた啓発活動を行ったことにより、朝食の大切さに対する保護者の意識を高めることができた。

### 4 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 朝食の大切さについて理解を一層深め、朝食の摂取頻度の向上を図ることができるよう、給食だよりでの啓発活動や食に関する指導を継続して取り組む必要がある。
- 朝食の大切さへの意識を持続させることができるよう、本事業の成果を生かし、中学校における食に関する指導を充実する必要がある。